

# 遠加

おんが  
議会だより

2013  
11月号  
vol.130



## 9月定例会

平成24年度 決算

私たちの税金は何に使われたの? …… 2

決算特別委員会審査報告 …… 4

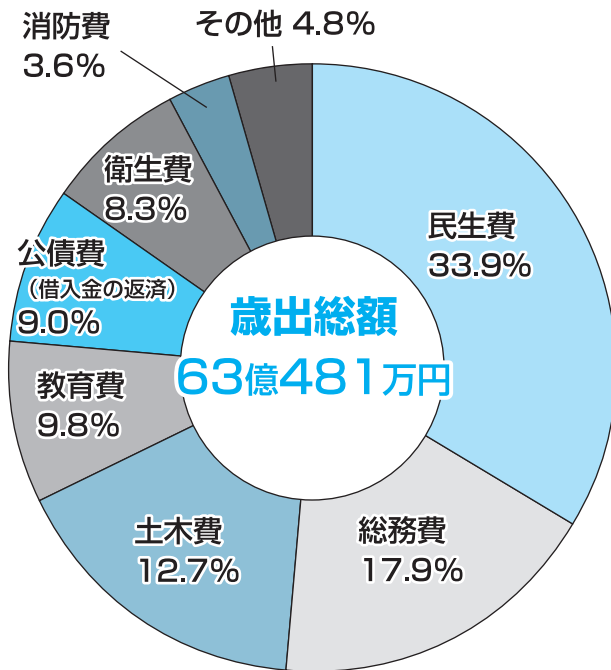
補正予算・委員会レポートなど …… 6

一般質問 …… 8

傍聴席から一言・全国交流レガッタ出場 …… 14

広渡小学校運動会  
10月6日

# 一般会計 歳出 (万円未満四捨五入)



**民生費**   
21億3636万円


**総務費**   
11億2903万円

**土木費**   
8億370万円

**消防費**   
2億2636万円

**衛生費**   
5億2194万円

**教育費**   
6億1505万円

**その他**   
3億223万円

(内訳)  
 農林水産業費 1億6446万円  
 議会費 1億1713万円  
 商工費 2064万円

**公債費 (借入金の返済)**   
5億7014万円

※町財政状況の詳細は、遠賀町ホームページ (<http://www.town.onga.lg.jp>) をご覧ください。

私たちの税金は  
何に使われたの？

## 9月 定例会

9月定例会は、9月2日から20日まで9日間開催されました。  
 議案は、平成24年度一般会計ならびに9特別会計の決算、条例の制定・改正、平成25年度一般・特別会計補正予算など18件が上程され、慎重審議を行いました。

## 平成24年度 決算認定

(後期高齢者医療特別会計 賛成多数認定)  
 (そのほかすべて 全員一致認定)

### 事業費の減少で、決算規模が縮小

平成24年度一般会計の決算の内容は、歳出総額63億481万円で、前年度に比べると4億901万円と6.1%の大幅な減額になっています。減少の主なもの、退職者の減少による職員退職手当、遠賀川駅自由通路設置事業や都市公園整備事業など事業の減少です。また、町の主な財源は、町税などの自主財源と国・県からの支出

平成24年度一般会計の決算の内容は、歳出総額63億481万円で、前年度に比べると4億901万円と6.1%の大幅な減額になっています。減少の主なもの、退職者の減少による職員退職手当、遠賀川駅自由通路設置事業や都市公園整備事業など事業の減少です。また、町の主な財源は、町税などの自主財源と国・県からの支出

金や地方交付税などの依存財源に分けられます。自主財源は、46.9%で、前年度の45.7%に比べ、1.2ポイントの増です。特別会計では、国民健康保険事業の歳出が24億1520万円で、前年度に比べ1億2953万円と5.7%の増加しています。

増加した主なものは、70歳以上高齢者の入院医療費と後期高齢者医療費への支援金の増加で、高齢者医療費の負担が重くのしかかっています。

## 監査委員指摘事項

普通会計の決算状況をみると、<sup>(注1)</sup>実質単年度収支は2億7238万円の黒字であり、<sup>(注2)</sup>実質収支比率5.0%と良好な状態である。

決算額は歳入が前年度比3.1%減、歳出4.4%減となっており、決算規模は縮小している。

平成24年度の地方債現在高は全会計の合計で97億5247万円となるなど、依然として厳しい財政状態にある。

このような状況の中、景気は依然として厳しい状況にあり、税収の減少や高齢化による医療費の増大により、財政状況が厳しくなることが予想される。

したがって、国の地方財政の動向に注視し、可能な限りの予見と捕足に努めることはもとより、町税および各種使用料等の歳入の確保、自立推進計画の実行により効率的で長期的に安定した財政運営を行うことを期待する。

### (注1) 実質単年度収支

単年度収支に実質的な黒字要素(基金への積立額など)を加え、赤字要素(基金の取崩額)を差し引いた額。

### (注2) 実質収支比率

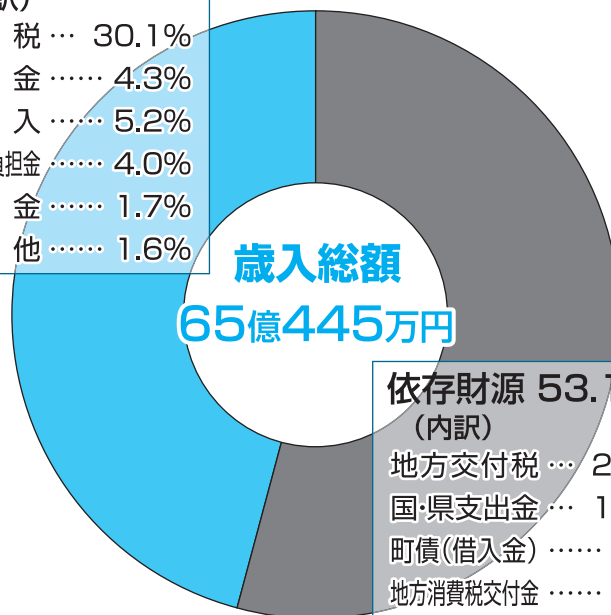
実質収支の額の適否を判断する指標で、標準財政規模に対する実質収支額の割合。

財源の有効活用という観点から、おおむね標準財政規模の3~5%程度が望ましい。

## 一般会計 歳入 (万円未満四捨五入)

### 自主財源 46.9% (内訳)

町税… 30.1%  
繰入金… 4.3%  
諸収入… 5.2%  
分担金負担金… 4.0%  
繰越金… 1.7%  
その他… 1.6%



### 依存財源 53.1% (内訳)

地方交付税… 23.2%  
国・県支出金… 17.7%  
町債(借入金)… 7.3%  
地方消費税交付金… 2.7%  
その他… 2.2%

## 町税の税目別収入状況の推移

(万円未満四捨五入)

平成24年度 19億5930万円

平成23年度 19億9047万円



## 平成24年度 各会計歳入歳出決算一覧 (万円未満四捨五入)

会計名	歳入	歳出	差引残額	
一般会計	65億 445万円	63億 481万円	1億 9964万円	
特別会計	国民健康保険事業	24億 6855万円	24億 1520万円	5335万円
	住宅新築資金等貸付事業	1040万円	959万円	81万円
	遠賀霊園事業	1億 3522万円	1億 3224万円	298万円
	学校給食事業	1億 3610万円	1億 3599万円	11万円
	地域下水道事業	1億 2194万円	1億 1627万円	567万円
	農業集落排水事業	9109万円	8629万円	480万円
	公共下水道事業	6億 1274万円	5億 9934万円	1340万円
	土地取得	21万円	20万円	1万円
	後期高齢者医療	2億 6996万円	2億 6871万円	125万円

平成24年度  
決算特別委員会

# 審査報告

9月4日～11日

平成24年度一般会計と9特別会計の歳入歳出決算については、各担当課から主要施策の事業実績を中心に概要聴取を行い、予算がどのように事業に反映されたかを審査しました。

～私たちが審査しました～  
決算特別委員会



委員長 織田 隆徳  
副委員長 堅田 繁  
委員 萩本 悦子  
平見 光司  
仲野新三郎  
萩尾 修身

## 委員長報告

歳入のポイントとしては、「町税の徴収が効果的になされているか」「その他の収入確保の努力が十分であったか」「補助金を予算どおり確保できているか」を審査しました。

歳出のポイントとしては、「議決された予算が、適正かつ効果的に執行され、また、どのように事業効果が上がったか」に着目して審査しました。  
その結果、下記のような指摘をして、全議案を認定しました。

## 決算特別委員会での指摘事項

次の指摘事項については、執行部で検討され、次年度で報告されます。

### 指摘1

集会所の利活用について、3集会所間で内容や回数に大きな差があるため、有効に活用されている集会所を参考に、協議指導すべき。

### 指摘2

図書館の利用者が減



図書館の利用者を増やす対策を

少しているため、利用者が増えるような対策を行うべき。

### 指摘3

地域活性化商品券は、短期間で完売し、町内商工業の活性化につながっている。発行数を増やすために補助金の増額を講じるべき。

### 指摘4

下水道全体計画区域外への合併処理浄化槽設置を促進させるため、補助金の引き上げを講じるべき。

### 指摘5

コミュニティバス運行事業について、広域連携を推進し、住民の利便性の向上を図るべき。



コミュニティバス運行事業の広域連携推進を

### 指摘8

も相談し、法的措置を講じるべき。

遠賀霊園事業では、昨年からは町外者にも募集を開始し、北九州・中間方面から来る人が、道に迷ったとよく聞く。霊園への道案内の標示板設置を検討すべき。

### 指摘9

狂犬病予防注射の接種率が全国平均より低い。そのため、接種率を全国平均レベルまで上げる取り組みを講じるべき。

住宅が立ち並ぶ地域も増えてきている。調査を行い、住居表示の当初計画を拡大して実施すべき。

### 指摘7

学校給食事業では、給食費の未納者について、町の顧問弁護士と



狂犬病予防注射の接種率向上を

# 平成23年度 決算指摘事項 処理改善報告

**指摘** 選挙の投票率が低下しているので、啓発に努めるべき。

**改善** 若年層の投票率が低いという調査結果がでており、投票率向上に向けた取り組みを検討していく。

員を40人に拡大し、週2回利用できるよう準備を進めている。

平成27年度の介護保険制度改正の時期に合わせ、予防事業全体の見直しを図る。

**指摘** いきいきデイサービスは利用希望者が多い。他の一次予防事業と一体的に取り組み、充実すべき。

**改善** 社会福祉協議会と協議し、受け入れ定

**指摘** がんばる地域まちづくり事業は、対象団体が固定化している。今後もイベントとして継続するものは、別の助成のあり方を検討すべき。

**改善** 今後の事業展開については、がんばるまちづくり事業審査委員会に有識者も入れ、助言を得ながら、より

よい事業となるよう検討を続けている。

**指摘** 遠賀・中間線バス運行補填負担金は、本町が不利にならないように、軽減にむけて努力すべき。

**改善** 利用者の増加と赤字補填額の積算根拠の見直し等経営努力を迫るとともに、見直し後の路線への国庫補助金適用を模索している。これらの取り組みにより、本町の負担金を400万円以下に抑える努力を行っている。

**指摘** EM菌は河川の浄化がなく、国土交通省から河川投与自粛がされているならば、河川投与は廃止すべき。

**指摘** 霊園事業は、返還墓所の応募が少ない。



町外者も利用できる遠賀霊園

**改善** 平成24年12月に遠賀霊園条例を改正し、町外者の利用ができるようにした。

**指摘** 配食サービスは、今後も増加すると予測されるので、別の委託先の確保を検討すべき。

**改善** 利用者は現在のところ横ばいである。今後は受託者と協議をしながら、その他の事業者の配食サービスへの参入状況を調査し、安定した事業が実施できるよう努めている。

**指摘** 国民健康保険事業の赤字財政の実態を町民に知らせるため、

**指摘** 65歳のつどいは参加率が低い。今後も継続するのか検討すべき。

**改善** 今年度から事業を廃止することとした。

**指摘** 学校の門扉は、災害時の開門体制を早急に講じるべき。

**改善** 各小学校の門扉の合鍵を地区の区長に貸与し、災害時に備えるようにした。

**指摘** 寿大大学は、郡内での共同開催を含め、参加者を増やす対策を講じるべき。

**改善** 郡内の開催内容が異なっている状況であり、当分の間は現行の方法で開催内容を工夫しながら、参加者の増加を図る。

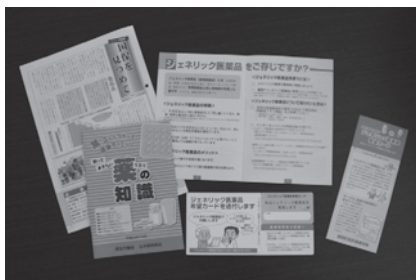
広報にシリーズ化して掲載すべき。

**改善** 平成24年11月10日号の広報から、毎月1回「国保を見つめて」と題をつけてシリーズ掲載し、周知を図っている。

**指摘** ジェネリック医薬品の使用について、今後も啓発に努めるべき。

**改善** 広報誌への掲載や被保険者証の更新時に文書案内など啓発を続けている。

その結果、調剤費が約190万円の削減につながっている。



啓発ジェネリック医薬品の啓発



一次予防事業の若返り教室

# 条例制定

子ども・子育て会議条例の制定

(全員一致可決)

子ども・子育て支援法に基づき、本町に子ども・子育て会議を置き、その組織と運営に  
関し必要な事項を定めるもの。

その内容は、特定教育・保育施設や特定地域型保育事業の利用定

員の設定および子ども・子育て支援事業計画の

策定または変更に関し、町長に意見を述べることに。子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に  
関し、必要な事項および当該施策の実施状況を調査審議すること。

今回の補正予算で、計上された主な事業は次のとおりです。

庁舎再生可能エネルギー導入事業実施設計業務委託料

122万円

役場庁舎へ太陽光発電設備を設置するために、実施設計を専門業者に委託するもの。

子ども・子育て支援ニーズ調査委託料

309万円

就学前児童1600人を対象に、アンケート調査を行うもの。

木守コミュニティ広場改修工事費

982万円

木守コミュニティ広場をグラウンドゴルフやペタンク競技など、区民の親睦に活用して

高年齢者が自宅で暮らしやすいように住宅を改造する場合に助成を行うもので、今回、申請者の増加に伴い追加補正するもの。

高齢者等住宅改造助成金

60万円

平成25年度  
一般会計補正予算  
2859万円増額  
(万円未満四捨五入)

(全員一致可決)

第2回目の補正予算は、2859万円増額は、予算規模は66億3



整備される木守コミュニティ広場

## 議会運営委員会 議会改革先進地視察 7月1日～2日

議会基本条例は、平成23年の時点では、260の議会で制定されています。犬山市は平成23年、亀岡市は平成22年に、それぞれ議会基本条例を制定しています。

議会運営委員会では、7月1日と2日に愛知県犬山市・京都府亀岡市に「議会改革・議会活性化、議会基本条例制定後の課題について」の視察を行いました。

本町議会でも、議会基本条例については、昨年8月から制定に向けての協議を重ねているところですが、この過程で「情報公開」「意見交換会」「議会説明会」「住民参画」などたくさん疑問がでてきました。

そこで、議会改革の先進地で議会基本条例を運用している両市に現状を伺い、「よそのまねではなく、自分の町の歴史・風土など大切にし、背伸びせずに自分の町の基本条例をつくること」の大切さを再認識し、今後の参考にしていきたいと思います。



犬山市での視察

### 人事案件

**監査委員 (全員一致同意)**  
任期満了に伴い、再度推薦するもの。  
有田 征治さん(別府)  
▽任期  
平成25年10月2日から  
平成29年10月1日まで

**教育委員会委員 (全員一致同意)**  
任期満了に伴い、再度推薦するもの。  
三原 幸子さん(鬼津)  
▽任期  
平成25年10月6日から  
平成29年10月5日まで

## 意見書

### 道州制導入に反対する意見書 (賛成多数可決) (関係機関に送付)

我々町村議会は、平成20年以來、町村議会議長全国大会において、「住民自治の推進に逆行する道州制は行わないこと」を決定し、また本年4月15日には、「町村や国民に対して丁寧な説明や真摯な議論もないまま、道州制の導入が決定したかのごとき法案が提出されようとしていることは誠に遺憾である」とする緊急声明を行った。

しかしながら、道州制導入を目指す法案の国会への提出の動きが依然としてみられ、我々の要請を無視するかの動きをみせている。

よって、我々遠賀町議会は、道州制の導入に反対する。



耐震診断を行う広渡公民館

地区公民館耐震診断業務委託料 203万円  
第1次審査で耐震基準を満たしていない3地区の公民館（広渡、尾崎、千代丸）のうち、広渡と尾崎公民館の1.5次診断を実施するもの。なお、千代丸公民館は、補強が困難との結果である。

地区公民館施設補助金 36万円  
若松公民館の大広間と厨房の空調施設の改修工事費に補助するもの。

町制50周年記念パンフレット製作費 61万円  
町制50周年にあたり記念パンフレットの作成業務委託料と印刷代



フェンスが設置される島門小学校

島門小学校整備費 650万円  
門扉4カ所の設置と正門前道路13.4mにフェンスを設置するもの。

### 賛否が分かれた議案 (○：賛成 ▲：反対 欠：欠席)

議席番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
会議名	議員名	浜岡	萩本	織田	二村	仲野	平見	加藤	中野	萩尾	三原	古野	堅田	舛添	奥村
9月定例会	平成24年度遠賀町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	欠	(議長)
	道州制導入に反対する意見書案の提出について	○	○	▲	○	○	○	○	▲	▲	○	○	○	○	欠

※全員一致の議案は除いています。

シエーンバツハ・サポー（東京都）で開催された町村議会広報研修会に参加しました。まずはじめに、国立言語研究所の山田貞雄さんからは、読み手にとつての『わかりやすさ』『ふさわしさ』を重点的に考えて文章を書くなど、活字や言語表現などで読者との距離を近くするということを学びました。

次に、武蔵野美術大学教授の長澤忠徳さんには、書体や色の使い方、そしてレイアウトのコツなどを学び、日本文字家協会の川西正

## 広報調査特別委員会 町村議会広報研修会

7月29日～30日



深沢徹さんによる広報クリニック

幸さんからは、人物を必ず入れて臨場感を表現するなど、写真を撮るときポイントなどを学びました。

広報コンサルタントの深沢徹さんによる広報クリニックでは、本町の議会だよりの良いところや改善すべきところを指摘していただきました。

今回の研修会で学んだことを生かして、多くの方々に読んでいただけるような議会広報を作っていきたいと思っています。



## 学校給食でのアレルギーを持つ子どもへの対応は



はぎもと えつこ  
萩本 悦子



学校給食実施基準や食に関する指導手引等各種法令、通達に基づき対応している



除去食・代替食用の  
給食容器

### 学校での食物アレルギーの対応は

**議員** 今後、食物アレルギーを持つ子どもたちが増えた場合、学校給食への対応は。

**教育長** 児童生徒が学校に通う以上、やはり誠実に対応していかねければならない。

**議員** 除去食や代替食への対応はきちんとやっていたらだいたいと思うが、対象になる子どもたちが増えた場合、現在の給食センターの体制では対応できるのか。栄養士の増員が必要と考えるが。

**教育長** 予算が関わることではあるが、教育委員会としては、町の栄養士の配置等を検討しているところだ。

**議員** 本年度から、学校給食の民間委託への準備が進められているが、民間委託になった

場合、現在のようなきめ細やかなアレルギー対応給食が維持できるのか。

**教育長** 学校は子どもを預かっているの、全員で命を守る取り組みが一番大切と考える。

これは、民間委託になっても、中心的な内容の一つになると考える。

**議員** 食物アレルギーは命に関わることもある。教員全員が、食物アレルギーについて正しく理解することが必要だ。研修は、どのように行われているか。

**教育長** 現在、教育委員会としては、各学校に食物アレルギーの研修実施の指示は出していないが、今後は実施したい。

**議員** 万が一のときのアドレナリン自己注射（エピペン）の使い方の講習も必要だ。

### 自殺防止対策事業

**議員** 自殺防止対策事業として「ゲートキーパー養成講座」が予定されているが、ロールプレイの実施など、もう少し内容を充実すべきと考えるが。

**町長** 過去2年間は、啓発パンフレットを配布してきた。「ゲートキーパー養成講座」の取り組みが遅れていると言われればそうかもしれない。ただ、この事業は初年度のため、今後は計画立ててやっていきたい。

※一般質問の議事録は、遠賀町ホームページ(<http://www.town.onaga.lg.jp/>)で公開します。





はま おか みね さと  
**浜岡 峯達**



## 町制施行50周年記念事業の推進状況は



基本計画が10月に完成。  
記念事業のスタートに向けて情報発信作業を進める



町制施行50周年を迎える遠賀町

### 50周年記念事業の概要と取り組みは

**議員** 住民と一体化した事業の計画は。

**町長** 町民オリンピックが全体的に一堂に会してやっていける事業と思っている。

**議員** 住民の皆さんからどのような要望があったか。

**行政経営課長** 町の職員が出したアイデア、それを基に実行委員会で議論をしているというところで、直接・間接的に意見を頂いている。

**議員** 実行委員会は数回協議されているが、実行委員会の中からこういうものをやったらどうかという意見はなかったか。

**町長** 実行委員会は4回も重ねているのでそれぞれのポイントで協議を行ってきた。どこまで答弁をしていいか

というのがあるので、後日出来上がりしだい報告をしたいと考える。

**議員** 実行委員会の中で50周年記念事業の目的と意義について協議されたことがあるか。

**町長** 実行委員会の中では、50年の歴史の成果が、遠賀町にあるというところから、この町の誇りを未来へとつなげていくための町制50年という意義、未来を展望する現時点での一つの到達のスタートの年であることを踏まえて議論を行っている。

### 後世に残す事業としてその内容は

**議員** 50周年記念事業は、後世の人に何を残すか、また、何を託すかは、我々世代の責務と考える。町長ならびに教育長に所見を伺う。

**町長** 一つは町民の思い出として深く記憶さ

れるということ。次に未来の遠賀町民へ形あるものをつなげていくために遠賀町に残し続けるものであってほしいと考えている。

**教育長** 住民の皆さんから構成されている実行委員会の意見を尊重し、提案に沿って進めていきたい。町民全体で祝いをして、豊かな自然と歴史と文化とか、そういうものを分かち合いながら将来につなげていけたらと考える。

**議員** 50周年記念事業が後世に残るような、歴史文化を次世代の人に受け継がれていくようなものになるようにしていかなくてはと思う。

※一般質問の議事録は、遠賀町ホームページ(<http://www.town.ongak.jp/>)で公開します。



## 農振地域内農地の振興を集中的に行う考えか



おだ たかのり  
織田 隆徳



中小規模農家も、しっかり見守っていく

農業地面積の推移 (単位: ha)

	耕地面積	耕作放棄地面積	遊休地面積
平成20年	733.9	15.3	48.5
平成21年	731.9	15.3	48.6
平成22年	730.9	14.7	25.4
平成23年	729.8	16.4	28.4
平成24年	729.1	15.5	27.4

農業従事者の推移 (単位: 人、%)

	15歳~19歳	割合	20歳~64歳	割合	65歳~	割合	計
平成12年	31	2.9	662	61.3	387	35.8	1,080
平成17年	25	3.3	433	57.0	302	39.7	760
平成22年	13	2.1	326	52.3	284	45.6	623
郡平均	33	1.9	918	52.9	785	45.2	1,736
県平均	2,248	2.0	67,490	59.0	44,661	39.0	114,399

本町農業の今後の展望は

**議員** 本町農業の現状は、農地の減少と耕作放棄地の増加、農業従事者の減少と高齢化が進んでいる。町長は、本町農業の今後の展望をどう考えているか。

**町長** 農業の持続的な発展のためには、農業経営の基盤である農地と人が共に確保されることが重要だと考えている。農業の担い手の育成と土地利用集積型への取り組みを進めるべきだと感じている。

**議員** 駅南の農地66haも開発される。開発と農業振興をどう調整させるのか、農業振興地域内農地の振興を集中的に行う考えか。

**町長** 今後の大きな問題だ。中小の農家もしっかり見守っていく。

要支援者へのサービスは大丈夫か

**議員** 政府は、比較的介護の必要が低い要支援1と2を平成27年度からサービス対象者から外し、市町村に移行する方針であるが、どう評価しているか。

**町長** 地域包括支援センターを軸に、関係機関や団体と連携して、利用者のニーズに応じたきめ細かなサービスの提供が可能となる点では評価できる。しかし、財源や利用者負担など不透明な部分が多く、これから国と協議が必要だ。

**議員** 本町の要支援1と2の対象者は何人か。

**福祉課長** 258人で全体の29%だ。

**議員** 移行された場合、対応できるのか不安だ。早めの検討と対応を要請する。

国保の県移管で保険料は安くなるか

**議員** 政府は、国民健康保険の運営を平成29年度末までに都道府県に移管する考えだが、どう評価しているか。

**町長** 医療費の適正化に取り組む動機付けが働き、一定の評価をしている。

**議員** 県内の国民健康保険料の最高と最低と本町の状況はどうなっているか。本町の保険料は下がるのか。

**住民課長** 最高額は9万8000円、最低は5万7000円である。本町は7万9000円であり、中間より少し高い。何とも言えないが、平均をスライドさせれば多少は下がる。

※この他にも、「教育委員会の組織再編」について質問しました。

※一般質問の議事録は、遠賀町ホームページ(<http://www.town.onaga.lg.jp/>)で公開します。



かた だ しげる  
**堅田 繁**



## 通院費の助成対象年齢をさらに拡大すべきだ



今は検証の時期だ。助成拡大も視野に置きつつ検討を続けていく

### 周辺自治体の乳幼児・子ども医療制度状況

	遠賀町	岡垣町	水巻町	芦屋町	中間市
通院費	小学3年生	※小学6年生	小学3年生	小学3年生	小学3年生
入院費	中学3年生	中学3年生	中学3年生	中学3年生	中学3年生

※印は、平成25年10月から実施。

小学1年生から小学6年生までは、医療機関ごとに、月800円の自己負担が必要。

#### 子ども支援の充実を

**議員** 乳幼児・子ども医療の充実を図るため、

通院費の助成対象年齢をさらに拡大すべきだ。

**町長** 遠賀町が他町に先駆けて拡充をスタートさせたが、逆転現象が起きている。そのため、どこまでの拡充が望ましいか、本町の財政状況を踏まえつつ把握しながら、持続可能な制度としてあり続けるためにも研究・検討を行っている。

これまで助成対象年齢を徐々に拡大してきたが、今は検証の時期だ。現時点では助成拡大も視野に置きつつ検討を続けていく。

**議員** 義務教育の中学3年生までを通院費の助成対象にするべきだ

と考えるが、小学6年と中学3年まで拡大すると財源はいくら必要か。

**住民課長** 今年度の4月から6月までの診療分、国民健康保険の実績を基に拡大の試算をする

と、小学6年は約550万円。中学3年は約640万円。合計で1190万円程度が必要になる。

**議員** 特定防衛施設周辺整備調整交付金の約4244万円の配分を見直すことで、せめて小学6年までの約550万円は捻出できないか。

**町長** あくまでも配分の問題なので計画に基づいて医療費に配分しなおせばいいのではな

**議員** 決断の是非は町長の政治姿勢の問題だ。1市4町の医療圏で、他町は助成対象年齢の拡大を検討している。

**町長** 十分その辺については内部で検討する。

**議員** グリーンコープ生協の協力で展開している移動販売車事業の検証はできているか。

**町長** 徐々に南部3カ所に定着してきているが、まだ知らない人が多い。利用者からは「この場所に来るのが幸せ」「毎週楽しみにしている」「来てもらって助かる」などの声が寄せられている。そのため、平成25年度末まで委託契約期間を延長し、買い物環境の改善効果を見定めたい。

※一般質問の議事録は、遠賀町ホームページ(<http://www.town.ongak.jp/>)で公開します。



## 農機具購入補助金を復活する考えはあるか



ふるの おさむ  
古野 修



新年度に向けて前向きに進めていく



麦作の管理機を使った  
作業風景

※一般質問の議事録は、遠賀町ホームページ(<http://www.town.onaga.lg.jp/>)で公開します。

### 農機具購入補助金

**議員** 平成19年度で、

営農支援対策事業（町単独事業）は廃止になった。現在は、大規模農家・営農組合のみ県

事業の農機具購入補助金を活用している。中規模農家に対し支援するべきだ。

**町長** 規模拡大を目指す農業者を支援する農業支援対策検討委員会を含め議論を行い、中規模農家支援対策として、新年度に向けて前向きに進めていく。

### 農産物ブランド化の進捗状況

**議員** 進捗状況を尋ねる。

**町長** しそジュースはペットボトル4000本（500ml）、菜種油345本（910g）を製造した。今後は販

路の拡大を行い、各イベントでPRし全量の販売を目指す。夢れんげについて、640

俵を確保予定。2合入りお試しパックでPR内容を拡大し、販売を進めていく。

**議員** 夢れんげに関しては、2回の会議で栽培層・出荷体制について協議ができていない。

**まちづくり課長** 統一した基準（品質）安全・安心な米の生産という取り組みだが、内容について見通しが甘かった。反省している。

**議員** しそジュース、菜種油の販売店の確保も含め、ブランド化事業の事務的作業が遅れている。町費を使っての事業では、費用対効果も考えると、前回の質問時にも指摘をしているが、農作物は年1回しか生産できない。来年度に向けて、早急

に効率的に事業推進するべきだ。

**町長** 事務対応が、後手後手になっているのも指摘の通りだ。再度しっかりと立て直しを行う。

### 行政組織について

**議員** 対応はできているか。機構改革を行う考えはあるか。

**町長** 課長を中心に、事務の改善を視野に入れないながら、着実な住民サービスの提供に日々努めている。

**議員** 特に福祉課、まちづくり課に関して、重点的なものが集中して大変である。住民サービスが低下してはいけないと思うが、検討を尋ねる。

**町長** 機構・組織の見直しを進めていく。



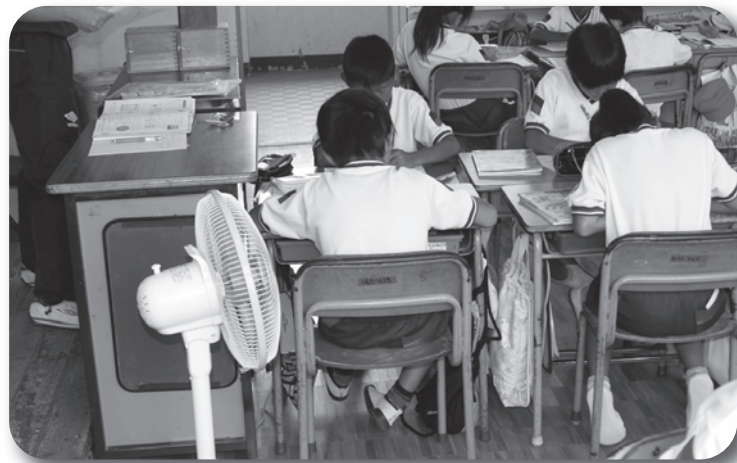
みはらみつひろ  
三原 光広



## 小・中学校の教室には扇風機設置が必要でないか



教育長としての思いは、扇風機は必要という考えをもっている



暑さをしのぐ扇風機

### 小・中学校での梅雨・暑さ対策は

**議員** 近年の気象状況

は、気温上昇・ゲリラ雨・突風・竜巻・大気汚染など異常気象で大変心配な状況である。

気象の変化とともに学校の環境も変化してきているのではないかと。日本の四季にも乱れが生じ、夏季の時期が長くなってきている。

子どものころに培う基礎力・学力・生涯学習・人間形成の場である学校環境の改善・整備は大切なことではないか。

本町の6月から9月までの、学校・学習における、梅雨・暑さ対策はどのように行われているのか。また、改善策などの考えはあるのか。

**教育長** 今年は記録的な猛暑で、連日35度を超

える日が続き、学校においても熱中症をはじめ学習環境の改善に頭を悩ませている。

小学校では熱中症警報に基づいて、休み時間の運動場の使用を禁止したり、帽子を着用し木陰で活動したり、エアコンのある部屋を

いつでも開放し、体温を下げたり授業を交代で活用したりしている。

また、水筒持参を呼び掛け、十分な水分補給をさせている。

中学校では30度を超えた場合は、体操服での学習を行ったり、窓の開放による換気や冷水器の新設などの水分補給を行っている。

今後、除湿や暑さ対策などのため扇風機の購入や設置など、何らかの対策が必要であると認識している。

町長部局と協議しながら検討していきたい。

**議員** 今のこの暑さ湿度の高さは、児童生徒が教育を受ける環境上望ましいと思っていないか。

**教育長** 夏季の学校訪問を行い、何らかの措置を講じなければならぬと思っている。

**議員** 教育は、教育委員会や執行部で行っているわけでなく、学校現場で行われている。現場を一番に考えてもらいたい。

忍耐力も必要、自然環境に慣れることも必要、体力の構築も必要だが、湿度・高温・熱中症対策のため、扇風機設置を早急に行うべきである。

※一般質問の議事録は、遠賀町ホームページ(<http://www.town.ongak.jp/>)で公開します。



# 傍聴者から一言

9月5日に行われた一般質問に、今年も寿大学の受講生の皆さんが、議会傍聴に訪れました。

今回傍聴に訪れたのは、13人の受講生の皆さん。傍聴席に入るのが初めての人も多く、最初は少し緊張した様子でした。

しかし、一般質問が



議場での議論に耳を傾ける寿大学の皆さん

始まると、皆さんの表情も真剣そのもの。議員と町長・教育長等の議論に、熱心に耳を傾けていました。

傍聴後に皆さんから頂いた感想（二部抜粋）の中には、

「初めて見学させていただき、張り詰めた空気が規律ある厳粛な雰囲気は伝わり、勉強になりました。」

「町民から選ばれた方々や、町のスタッフの方々が、今後も町民の声に耳を傾け知恵を出し、住みよい遠賀町に尽力されることを期待しています。」

「議会だよりは表紙だけ読んで、内容を見るのが少なかったが、生の声を聞き、真剣さなどに感動しました。」

## 第22回

# 全国市町村交流レガッタ大会

9月28日（土）、29日（日）に新潟県東蒲原郡阿賀町で開催された、原郡阿賀町で開催された、議会チームとして参加しました。

レース会場である新潟県立津川漕艇場は、少し狭いコース幅でしたが、波の静かな素晴らしいコースでした。二日間とも秋晴れの好天気にも恵まれベストコンディションのもと競技することができました。



力を合わせて「さあ、行こう！」

一日目の予選では、2分29秒の好タイムを出すも、敗者復活戦となりました。二日目は2分25秒とタイムを更にしたものの、決勝進出とはなりませんでしたが。

本町からは議会チームの他にマンホール（壮年男子）、ロックベアーズ（壮年女子）が出場し、両チームとも準優勝という素晴らしい成績を収めました。

レースを通じて参加市町村のクルーとの交流を深めたことは、大変有意義なことでした。

来年は、秋田県の大潟村で開催される予定です。参加する以上は更なる練習を重ね、レベルアップを図り、大会に臨みたいと思います。

## 舩添清美副議長逝去

本町議会副議長舩添清美氏が10月9日、ご逝去されました。



故人は、平成15年の初当選から三期連続当選され、この間、副議長や広報調査特別委員会委員長、第一・第二常任委員会副委員長などを歴任され、福祉や教育、商工業の推進、そして議会改革など、あらゆる課題に力を注がれてきました。

謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

## 編集後記

7月の猛暑の中、東京都で行われた広報研修会に、私たち広報委員も参加しました。

その中で、広報クリエイティブがあり、本町は70点の評価でした。

本町広報誌の最大の弱点は、住民が登場して発言したり、議員と対話する企画がないと指摘されました。

研修会後、広報委員会は、指摘を受けたり学んだことをまとめ、今後の紙面作りの方針について話し合いました。

議会広報誌は、配布された数の30%ほどしか読まれていないそうです。一人でも読者が増えるよう、努力しなければと、考えています。

加藤 陽一郎

**遠賀議会だより**

発行責任者 奥村 守  
 議長 奥村 守  
 広報調査特別委員会 子司徳郎 身  
 委員長 悦光隆三 修  
 委員 萩本見田新陽  
 副委員長 萩平織仲加萩  
 委員 萩尾